

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471100139
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム葉山の里
訪問調査日	2022年10月7日
評価確定日	2022年10月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471100139	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	社会福祉法人 百鷗			
事業所名	グループホーム葉山の里			
所在地	( 240-0113 )			
	神奈川県三浦郡葉山町長柄253-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年9月27日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスがまん延する中、施設内に持ち込まない様に職員の体調管理には注意をしています。出勤時に各自、健康チェック表に体調を記入しています。体調がすぐれない職員は出勤前に連絡をし、出勤が可能か出勤停止かを判断しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年10月7日	評価機関 評価決定日	令和4年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人百鷗の運営です。同法人は平成2年に設立され、翌平成3年に葉山町で特別養護老人ホームを開所して以降、ショートステイ・デイサービス・居宅介護支援事業所・グループホームなど、利用者のニーズに応じた介護サービス事業を展開し、平成31年(令和元年)には地域包括支援センターの運営を葉山町から受託するなど、現在は葉山町と逗子市における地域の高齢者の暮らしを支える役割を担っています。ここ「グループホーム葉山の里」はJR逗子駅からバスで10分程、「長柄橋」下車して徒歩2分程の閑静な住宅街の中にあります。また、周囲には自然も多く残っていることから、鳥の鳴き声や、四季の移り変わりを体感することができます。

●事業所では、法人の経営理念「①利用者の個の尊厳を守り、地域社会での自立を支援します。②地域に開かれた、愛され信頼される法人を目指します。③高齢者福祉処遇の原点に立ち返り、「温もり・優しさ・安心・安全」をコンセプトとして、個の意思を尊重した利用者本位の質の高いサービス提供に努めます。」に基づき、管理者は利用者の意思や自尊心を尊重し、常に配慮と敬意を払った対応、ノーマライゼーションの視点を持ってケアを行うよう職員に伝え、利用者が尊厳を保持しながら生活を送れるよう支援しています。

●感染症拡大防止のため、これまで家族の面会は制限していましたが、今年の7月から家族との面会を再開し、現在は玄関にビニールカーテンの設置、窓越しやビデオカメラ(オンライン)などで対応し、家族・利用者の不安を払拭できるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	一階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会での自立を支援すると理念にあるように、散歩時に地域の方々に挨拶を行っている。	法人の経営理念「①利用者の個の尊厳を守り、地域社会での自立を支援します。②地域に開かれた、愛され信頼される法人を目指します。③高齢者福祉処遇の原点に立ち返り、「温もり・優しさ・安心・安全」をコンセプトとして、個の意思を尊重した利用者本位の質の高いサービス提供に努めます。」に基づき、住み慣れた地域の中で利用者が自立した生活を送れるよう、地域との関係作りや利用者の意思や自尊心を尊重したケアを心がけています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長柄下町内会に加入しているが、新型コロナウイルス予防のため、町内会内の活動に参加できませんでした。しかし、町内会からの広報や回覧板をご利用の方がお読みになり、地域の情報を楽しみにされています。	長柄下町内会に加入しており、町内会から回覧板や広報などを回していただき、利用者も回覧できるようにしています。町内会の活動は感染症拡大防止のため、自粛していますが、以前は町内会の活動に参加し、交流を図っていました。地域の方々からも事業所が認知症対応型の施設であることを認識していただいています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型の施設であることを、地域の方々が認識されているようです。最近、近所の方から入所申し込みを頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に1回実施しています。開催方法につきましては、新型コロナウイルス予防の為、書面での回議を中心としました。入居者の情報・人事・研修・防災訓練等について報告しています。	運営推進会議は4ヶ月に1回、入居者・入居者家族・葉山町（福祉課）職員・町内会民生委員をメンバーとして開催しています。現在も感染症拡大防止のため、書面開催とし、事業所の現状や活動報告、人事、研修、防災訓練の様子などを報告しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書の提出や介護保険の代行申請の提出等で葉山町行政窓口には情報を伝えています。	葉山町役場の担当者とは不明点や事業所で判断に迷う事案が生じた際に連絡を取り、助言や相談に乗っていただくようにしています。また、介護保険の代行申請の手続きや提出などで担当者と連絡を取り合っています。運営推進会議のメンバーとしても参加していただいております、事業所の実情を理解していただいております。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修を行ったり、自己点検シートを使用して身体拘束や高齢者虐待防止について確認しています。玄関の施錠については、玄関前が町道で車両の往来が多く、また防犯上の観点から施錠を行っています。	入居契約書に生命及び身体を保護するために緊急やむを得ない場合を除き身体拘束は行わないと明記しており、契約時にも家族に伝えてあります。身体拘束に該当する行為や言動について、内部研修で具体例を交えて話し合うことで、共通認識を図れるようにしています。また、自己点検シートを用いて日々のケアを振り返っています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い高齢者虐待防止について勉強しています。また、職員の声掛けなどで強い口調になる際は、注意を行っています。	虐待が行われたり、見過ごされることのないよう、その都度声かけや対応を確認しながら虐待防止に努めています。身体拘束と虐待については、年1回以上は事業所内研修のテーマとして学ぶ機会を設け、共通認識を図っています。また、身体拘束・虐待チェックリストなども活用して日々のケアを振り返る機会を設けています。特に声かけにおいて、強い口調にならないよう日頃から意識しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを用意していますが、制度を利用しようとされる利用者家族がいないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様に説明を行いご理解やご納得をいただき、不安や疑問点を解消させていただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族にご利用者の日常生活についてお伝えし、意見や要望をお聞きしています。また、毎月それぞれのご利用者の報告書と写真をお送りしています。	家族からの意見や要望については入居の段階でも確認していますが、入居後も面会時や電話連絡した際や、請求書と併せて近況報告を行うと共に、意見や要望を伺うようにしています。また、利用者の近況報告を写真と一緒に毎月郵送しており、気になる点などがあれば連絡くださいと一言添えることで、家族が気兼ねなく連絡できるよう配慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務中や朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞き、業務や運営の変更を行っています。	管理者は職員の出退勤時、業務時間、休憩時間、申し送り、職員会議などのあらゆる場面の中で意見や提案を聴き、職員会議の議題に挙げて話し合いながら業務や運営に反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行い職員個々の努力や意向等を確認しています。また、職員に声掛けを行い話やすい環境作りを心掛けています。	管理者は、職員の勤務状況を把握し、希望休や有休取得を促すなどライフワークバランスに考慮したシフト作成を心がけています。また、法人では人事考課を取り入れており、職員の日々の業務・勤務姿勢・能力を基に面談を実施し、面談結果を管理者から法人に報告しています。管理者は日頃から積極的に職員とのコミュニケーションを図ることで、和やかな雰囲気作りを心がけています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス予防の為、外部研修に関しては受講を控えました。内部研修を定期的に行って職員の知識や介護技術を高めました。	管理者は入職時の面談や業務の様子から、職員の力量の把握に努め、職員の経験年数や能力に応じて外部研修の受講を促し、スキルアップにつなげています。現在は感染症拡大防止のため、外部研修の受講は控えていますが、事業所内でも毎月実技・知識・法令遵守など様々なテーマを用いた研修を実施し、職員の資質向上に努めています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス予防の為、対面での接触を避けています。電話やメールで連絡を取っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族やご利用者から希望や要望や不安点をお聞きしています。それらをケアプランに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の契約の説明時に、それぞれの項目で不安な事や分からない事や要望をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報提供書等を利用したり、ご利用者とご家族とよく話し合ったりして必要とする支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で、ご利用者と一緒に洗濯物をたたんだり掃除をしたりして共同の生活を送っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご利用者の日頃の暮らしぶりをお伝えし、ご家族から要望や質問をお聞きして共に支えていく関係を作っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけた際、地名の表示をご覧になりご利用者が暮らしていた、ご自宅と同じ町内であることに喜ばれる事がありました。	契約時に、差し支えない程度に友人や知人に入居したことを伝えてくださいと声かけし、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。また、入居時のアセスメントで、本人にとって馴染みの場所や人、趣向などの情報の把握に努め、馴染みの場所にお連れしたり、趣向を継続できるよう支援しています。今年の7月から家族との面会を再開し、現在は玄関にビニールカーテンの設置、窓越しやビデオカメラ(オンライン)などで対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリクレーションの中で、それぞれの方が関り合えるように行っています。また、食事席を調整して楽しい雰囲気づくりを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、お困りの事が無いか電話連絡を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、何気ない会話をした時に感じ取れるご利用者のお気持ちを大切に、職員間でその気持ちについて話し合っています。	入居時の面談で本人、家族、介護支援専門員から生活歴、既往歴、趣味嗜好品、事業所での暮らし方の希望や意向について聞き取りを行い、可能な限り希望や意向に沿った生活が送れるよう支援しています。困難なことであっても職員間で話し合い、代替え案や実現に向けて必要な支援方法を考えるなど、一人一人の思いを大切に支援を心がけています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に入所前情報提供書等を確認して、その方の生活歴や生活環境を把握します。そして、入所時にご利用者やご家族から生活環境やこれまでのサービス利用をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定を行って、お一人お一人の身体状況を確認しています。また、ケアプランのアセスメントを行い有する能力を把握しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕の申し送り時や医師の訪問診療時に、ご利用者について話し合い意見やアイデアを取り入れたり、ご利用者に意向をお聞きしたりして介護計画を作成しています。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの間経過を観察しながら、生活の様子や心身の情報収集に努めています。その後は、ミーティングや必要時検討会議などで得られた情報や職員ごとの気づきを共有しながら現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人一人の個別記録や職員の連絡帳で、情報を共有しています。それを実践や介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体重増加が見られる方に、個別で階段昇降や歩行運動を行って頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会館で行われる「ふれあいサロン」や「貯金運動」、福祉まつりなどに例年は参加していましたが、新型コロナウイルス予防の為、参加を見合わせています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	半数以上の方が、入所前からのかかりつけ医の往診を継続されています。通院はご家族の付き添いを基本としています。緊急の場合は職員がお連れしています。歯科医は週に1度往診があります。	入居時に、事業所の協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。入居前からのかかりつけ医を主治医としている方は、かかりつけ医の受診を継続しています。歯科医は週1回訪問があり、義歯調整や治療、口腔ケアをお願いしています。また、看護師も週1回来ており、利用者の適切な健康管理が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の身体状況の変化を観察し、申し送りノートに記入して看護師に相談しています。そして、受診が必要と判断した時は、速やかに受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出して、病院に情報を送っています。また、病院の連携室やナースステーションに身体状況を尋ねたりして病院関係者と連絡を取っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期ケアについて、事業所で出来ること、出来ないことについて説明し、同意書を交わしています。重度化の際には、改めて医師、家族、管理者による話し合いの場を設け、方針について確認しています。看取りを行う際は、家族の意向に沿った支援が出来るように、医療機関と協力しております。	契約時に終末期ケアについて事業所でできること・できないことについて説明し、同意書を取り交わしています。その後、状態の変化に応じて医師・家族・管理者による話し合いの合を設け、今後の方針について確認すると共に、方針を共有しながらか、家族の意向に沿った支援ができるよう、医療機関と協力しながら支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の内部研修を行い、事故の事故予見により事故発生を予防しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行って火災や地震や災害に備えています。また、非常食を備蓄して災害に備えています。	年2回、火災・地震を想定した防災訓練を実施しています。コロナ禍以前までは地域の方にも参加していただき、見守りをお願いするとともに災害時の協力についても呼びかけを行っていましたが、現在は感染防止の観点から地域の方への参加は見合わせています。防災設備点検時には、防災機器の取り扱いについて指導を受けています。備蓄品は数日分の食糧、飲料水、衛生用品、懐中電灯なども準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の新任研修でマナー・接遇・個人情報・権利擁護の研修を実施しています。職員は利用者一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応を心掛けています。対応に改善を要する場合には、職員や管理者が指導しています。	入職時の新任研修でマナー・接遇・個人情報・権利擁護の研修を実施しています。また、事業所内研修の他、毎朝のミーティング、申し送りやカンファレンスなどで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設け、利用者との関わり方について再確認しています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、特に言動には十分注意しています。居室への入室、入浴や排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、色々な場面でご本人の意向を伺ってご希望をお聞きしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ですのである程度の時間の制約はありますが、可能な限りご本人のご希望やペースを支援させて頂いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着替え時など、お持ちになっている衣類の中からその時のご本人の気分や陽気などを考えて洋服を選ぶように支援させて頂いています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方に合った食事の形態で提供し、スムーズに美味しく召し上がられるように支援させて頂いています。	食事はレシピ付きで業者から発注し、職員が調理しています。できる方には食事の下ごしらえなどの準備や片付けに関わっていただくようにして、残存能力の維持につなげています。季節や歳時に合わせた食事を提供するなど、食事を楽しんでいただけるように支援しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が確保できないような方には、主治医に相談して補助食品を処方してもらっています。また、水分摂取が不足しない様に適宜スポーツドリンクを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って口腔内の保清を保っています。また、希望者の方には週に1度、歯科往診にて口腔ケアを受けられています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の都度、ご利用者個々の排泄チェック表に排泄の状況を記入しています。この表を基に排泄のパターンを把握して自立支援をさせて頂いています。	入居時は、排泄リズムを把握するために排泄チェック表やアセスメントを行い、その方に適したタイミングによるトイレ誘導で、自立に向けた排泄支援を心がけています。夜間は個々に応じて睡眠を優先する方、トイレにお連れするなどの支援を行っています。排泄介護用品の使用は極力控え、自立排泄を促すよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防としては、階段昇降や歩行運動を行っています。また、水分摂取量に注意して、水分を多く摂って頂くように声掛けを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回、入浴日を設けています。拒否の見られる場合は、時間を空けたり職員を変えたりして対応しています。また、菖蒲湯やゆず湯や入浴剤を使用したりして、入浴を楽しんで頂けるように支援させて頂いています。	週2回の入浴を基本とし、入浴拒否のある方は入浴日や時間、職員を変更しながら声かけしています。入浴前にはバイタルチェックを行い、本人の意向を確認したうえで入浴を促しています。時には入浴剤や季節のお風呂などで気分を変えて入浴していただくようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの方の体調を確認して、休息を勧めたりしています。また、夜間帯はその方の生活習慣や体調に合わせて入床介助を行っています。居室の室温管理も注意して行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、職員が業務前に読む連絡ノートや朝夕の申し送り時で薬について理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の資料などを参考にして、その方の生活歴を把握しています。それによりその方にあった活動を提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス予防の為、外出行事は自粛しています。近所の散歩は、出来るだけ外出するように努力しています。	事業所は自然豊かな山々に囲まれた環境下であり、天気や気候の良い日には事業所周辺を散歩にお連れするよう心がけ、気分転換や季節の移り変わりを肌で体感してもらうようにしています。四季折々の外出行事や人混みへの外出は自粛しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて所持や希望の聞き取りを行い、買い物支援を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が掛かってきて、楽しそうに会話をされています。また、手紙も家族から届いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日掃除しております。掃除の際、臭いや温度や音など掃除以外の事にも気を付けて対応しています。	共有空間は皆が集まって過ごす場所でもあることから、整理整頓を心掛け、室温や採光なども職員によって適切に管理されています。壁にはレクで作成した季節毎の作品やカレンダーを飾っています。また、玄関や階段にも利用者が作成したタペストリーや小物を飾っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の間取りの都合で、共用空間で一人になれるようなスペースが出来ていないのが現状です。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のダンスの上に家族写真や以前に使っていた小物などを置いて、昔を思い出せるように工夫をしています。	各居室にはエアコンとクローゼット、洗面台と鏡が完備されています。自宅の生活の延長として暮らしを継続していただけるよう、使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んでいただき、家具類の配置は本人と家族で相談しながら決めていただくようにしています。ADLの低下に伴い転倒などのリスクが生じた際には、家族に相談して配置を変更しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁に大きく「トイレ」の表示板を付けたりしています。また、毎食の食事のメニューを貼りだしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム葉山の里

作成日 令和4年10月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	41	ご利用者の血液検査の結果、たんぱく質が不足している方達がいっぱいいました。	現在の食事を見直して、たんぱく質を増やしたいです。	毎朝、牛乳をお出ししてたんぱく質を補う。	1年
2	13	新型コロナウイルス予防の為、外部研修を控えています。	リモートでの外部研修を実施したいです。	かながわ福祉情報コミュニティなどを活用してリモートでの研修を実施したいです。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	二階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会での自立を支援すると理念があるように、散歩時に地域の方々に挨拶を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長柄下町内会に加入しているが、新型コロナウイルス予防のため、町内会内の活動に参加できませんでした。しかし、町内会からの広報や回覧板をご利用者の方がお読みになり、地域の情報を楽しみにされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型の施設であることを、地域の方々が認識されているようです。最近、近所の方から入所申し込みを頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4か月に1回実施しています。開催方法につきましては、新型コロナウイルス予防の為、書面での回議を中心としました。入居者の情報・人事・研修・防災訓練等について報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書の提出や介護保険の代行申請の提出等で葉山町行政窓口には情報を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修を行ったり、自己点検シートを使用して身体拘束や高齢者虐待防止について確認しています。玄関の施錠については、玄関前が町道で車両の往来が多く、また防犯上の観点から施錠を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い高齢者虐待防止について勉強しています。また、職員の声掛けなどで強い口調になる際は、注意を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを用意していますが、制度を利用しようとされる利用者家族がないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様に説明を行いご理解やご納得をいただき、不安や疑問点を解消させていただいています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族にご利用者の日常生活についてお伝えし、意見や要望をお聞きしています。また、毎月それぞれのご利用者の報告書と写真をお送りしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務中や朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞き、業務や運営の変更を行っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行い職員個々の努力や意向等を確認しています。また、職員に声掛けを行い話やすい環境作りを心掛けています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス予防の為、外部研修に関しては受講を控えました。内部研修を定期的に行って職員の知識や介護技術を高めました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス予防の為、対面での接触を避けています。電話やメールで連絡を取っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族やご利用者から希望や要望や不安点をお聞きしています。それらをケアプランに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の契約の説明時に、それぞれの項目で不安な事や分からない事や要望をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報提供書等を利用したり、ご利用者とご家族とよく話し合ったりして必要とする支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で、ご利用者と一緒に洗濯物をたたんだり掃除をしたりして共同の生活を送っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご利用者の日頃の暮らしぶりをお伝えし、ご家族から要望や質問をお聞きして共に支えていく関係を作っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけた際、地名の表示をご覧になりご利用者が暮らしていた、ご自宅と同じ町内であることに喜ばれる事がありました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のリクレーションの中で、それぞれの方が関り合えるように行っています。また、食事席を調整して楽しい雰囲気づくりを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、お困りの事が無いか電話連絡を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、何気ない会話をした時に感じ取れるご利用者のお気持ちを大切に、職員間でその気持ちについて話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に入所前情報提供書等を確認して、その方の生活歴や生活環境を把握します。そして、入所時にご利用者やご家族から生活環境やこれまでのサービス利用をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定を行って、お一人お一人の身体状況を確認しています。また、ケアプランのアセスメントを行い有する能力を把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕の申し送り時や医師の訪問診療時に、ご利用者について話し合い意見やアイデアを取り入れたり、ご利用者に意向をお聞きしたりして介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人一人の個別記録や職員の連絡帳で、情報を共有しています。それを実践や介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体重増加が見られる方に、個別で階段昇降や歩行運動を行って頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会館で行われる「ふれあいサロン」や「貯金運動」、福祉まつりなどに例年は参加していましたが、新型コロナウイルス予防の為、参加を見合わせています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	半数以上の方が、入所前からのかかりつけ医の往診を継続されています。通院はご家族の付き添いを基本としています。緊急の場合は職員がお連れしています。歯科医は週に1度往診があります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の身体状況の変化を観察し、申し送りノートに記入して看護師に相談しています。そして、受診が必要と判断した時は、速やかに受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出して、病院に情報を送っています。また、病院の連携室やナースステーションに身体状況を尋ねたりして病院関係者と連絡を取っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期ケアについて、事業所で出来ること、出来ないことについて説明し、同意書を交わしています。重度化の際には、改めて医師、家族、管理者による話し合いの場を設け、方針について確認しています。看取りを行う際は、家族の意向に沿った支援が出来るように、医療機関と協力しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の内部研修を行い、事故の事故予見により事故発生を予防しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行って火災や地震や災害に備えています。また、非常食を備蓄して災害に備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の新任研修でマナー・接遇・個人情報・権利擁護の研修を実施しています。職員は利用者一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉遣いや対応を心掛けています。対応に改善を要する場合には、職員や管理者が指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、色々な場面でご本人の意向を伺ってご希望をお聞きしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活でするのである程度の時間の制約はありますが、可能な限りご本人のご希望やペースを支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着替え時など、お持ちになっている衣類の中からその時のご本人の気分や陽気などを考えて洋服を選ぶように支援させて頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方に合った食事の形態で提供し、スムーズに美味しく召し上がられるように支援させて頂いています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が確保できないような方には、主治医に相談して補助食品を処方してもらっています。また、水分摂取が不足しない様に適宜スポーツドリンクを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って口腔内の保清を保っています。また、希望者の方には週に1度、歯科往診にて口腔ケアを受けられています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の都度、ご利用者個々の排泄チェック表に排泄の状況を記入しています。この表を基に排泄のパターンを把握して自立支援をさせて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防としては、階段昇降や歩行運動を行っています。また、水分摂取量に注意して、水分を多く摂って頂くように声掛けを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回、入浴日を設けています。拒否の見られる場合は、時間を空けたり職員を変えたりして対応しています。また、菖蒲湯やゆず湯や入浴剤を使用したりして、入浴を楽しんで頂けるように支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの方の体調を確認して、休息を勧めたりしています。また、夜間帯はその方の生活習慣や体調に合わせて入床介助を行っています。居室の室温管理も注意して行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、職員が業務前に読む連絡ノートや朝夕の申し送り時で薬について理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の資料などを参考にして、その方の生活歴を把握しています。それによりその方にあった活動を提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス予防の為、外出行事は自粛しています。近所の散歩は、出来るだけ外出するように努力しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて所持や希望の聞き取りを行い、買い物支援を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が掛かってきて、楽しそうに会話をされています。また、手紙も家族から届いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日掃除しております。掃除の際、臭いや温度や音など掃除以外の事にも気を付けて対応しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の間取りの都合で、共用空間で一人になれるようなスペースが出来ていないのが現状です。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のダンスの上に家族写真や以前に使っていた小物などを置いて、昔を思い出せるように工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁に大きく「トイレ」の表示板を付けたりしています。また、毎食の食事のメニューを貼りだしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム葉山の里

作成日 令和4年10月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	41	ご利用者の血液検査の結果、たんぱく質が不足している方達がいっぱいました。	現在の食事を見直して、たんぱく質を増やしたいです。	毎朝、牛乳をお出ししてたんぱく質を補う。	1年
2	13	新型コロナウイルス予防の為、外部研修を控えています。	リモートでの外部研修を実施したいです。	かながわ福祉情報コミュニティなどを活用してリモートでの研修を実施したいです。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。